

写真は上から、ケンゆのかわ訪問看護ステーション所長の南正子さん、函館市居宅介護支援事業所連絡協議会会長の佐藤重生さん、飯田内科クリニック院長の飯田善樹さん

看護ステーションを利用するにあたって）、函館市居宅介護支援事業所連絡協議会会長の佐藤重生さん（在宅ケアでの連携と問題点）、飯田内科クリニック院長の飯田善樹さん（在宅医療における問題点）の五人。

の高さや関係者間の情報・コミュニケーションの不足、また利用者からは仕事の内容について誤解もあるなど現実の問題点が具体的に挙げられていた。

の知恵、アイデアが生まれるはずで、制度に振り回されるのではなく、この研究会を通じてみなさんの力で、道南ならではの地域ケアシステムを構築していこう」と話をした。

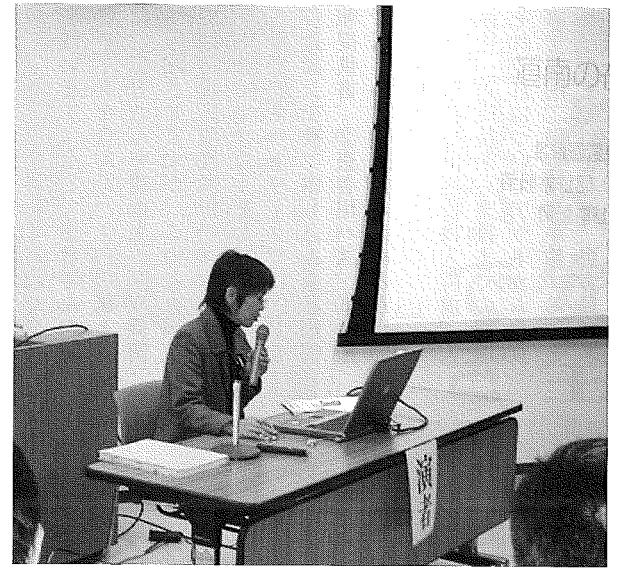
を一緒に考えていきたい」「現場に持ち帰れるようなテーマで勉強したい」などが挙げられていた。研究会としては、現場で活躍している多くの職種の人が、いつでも気軽に相談できるようにとメンバーリングリストの仕組みなどを取り入れることも検討中である。尚、問い合わせ等については、同研究会のホームページ（下記のアドレス）を参照して下さい。

道南の医療や福祉に携わる人たちにより昨年十月に発足した「道南在宅ケア研究会」（福徳雅章会長）の第二回定例会が二月二十二日に開催された。同研究会は、道南地区の病院の医師や開業医、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、社会福祉施設のスタッフなど医療や社会福祉のさまざまな職種の関係者により設立されたもの。会場となった医薬品卸会社

の会議室には一五〇人もの参加があつて急遽、椅子を追加するなど、在宅ケアへの関心の高さをうかがうことができた。

業計画や役員紹介に続いて、福岡で在宅ホスピスに取り組んでいる、にのさかクリニックの二ノ坂保喜院長による特別講演が「いのちと生活を支える在宅ケア」のテーマで行われた。

看護師など五人から、問題点や今後の展望について報告があつた。プレゼンテーションを行ったのは（括弧内はテーマ）、渡島保健所保健福祉企画課保健推進係長の羽山美由樹さん（道南在宅ケア事情について）、函館訪問看護ステーション所長の笹原理恵さん（訪問看護ステーションの活動状況報告）、ケンゆのかわ訪問看護ステーション所長の南正子さん（訪問



写真上は、渡島保健所保健福祉企画課保健推進係長の羽山美由樹さん、写真下は函館訪問看護ステーション所長の笹原理恵さん。

## 地域ケアシステムの構築を目指して

# 在宅ケア研究会がシンポジウム開催

2月22日に開催された「道南在宅ケア研究会」の第2回定例会は、シンポジウム形式で行われ、在宅医療の現状を、現場の医師や訪問看護師などから問題点や今後の展望について報告があつた。